

軍務局

勝

新占領南洋開拓ニ關スル建言  
並ニ燐礦拂下ニ關スル請願

同三書類人園中通過  
局ニ送附也

1012

新領土南洋開拓ニ關スル建言

併テ燐礦拂下ニ關スル請願

謹テ惟ルニ這般ノ大戰ニ依リ我國ノ占領セシ  
裏南洋諸群島約百六十平方里ハ國際聯盟會議  
ニ於テ委任統治名目ノ下ニ我國ノ永久占領ニ  
歸シ今ヤ海軍省所管臨時南洋防備隊司令部ノ  
統治ノ下ニ屬スルト雖モ不日拓殖局所管ノ下  
ニ民政ヲ布カル、事ト奉推察候  
統治施設ノ方法ニ至リテハ今後當局ノ方針ニ  
俟タサル可ラスト雖モ要スルニ此重責ヲ完ウ  
スヘキ所以ノモノハ之ヲ開拓事業ニ俟タサル  
可ラサルハ一點ノ疑ナキコト、奉存候

既ニ吾々事業家ノ資本ヲ此地ニ投シ極力開拓  
ニ從事セルモノノミヲ擧クルモ其數實ニ拾有  
參會社ノ多キニ達シ其投入資本既ニ壹千萬圓  
ヲ超工然カモ此等ノ事業ハ近來幾多ノ打撃ヲ  
受ケ動モスレハ收支相償ハサルモノアリテ經  
營上ノ困難名狀ス可ラサルモノアリ而シテ事  
業ノ前途ヤ如何椰子ヲ第一トシ棉花ノ如キ  
ピオカノ如キ煙草ノ如キ甘蔗ノ如キ玉蜀黍  
ナレ等ノ如キ或ハ工業原料品ノ供給ニ其他採  
テ以テ邦家ノ富源ニ資スヘキモノ指ヲ屈スル  
ニ違アラス夫レ斯ノ如ク天惠ノ豊富ナルニ拘  
ラス其業績ノ極テ振ハサルハ何ソヤ

熟ラ其起因スル所ヲ考察スルニ其事業ノ性質  
甚タ大ナルニモ拘ラス資本ノ之ニ伴ハサル是  
レ其一也運輸航海機關ノ缺如是レ其二也土地  
ノ狭小ナルニ拘ラス同業者ノ多數互ニ相喰ム  
是レ其三也ト雖モ畢竟スルニ政府當局ノ援護  
ナキニ基因セルノ大ナル又否認スルコト能ハ  
スト奉存候

由來開拓事業ハ申ス迄モナク巨額ノ資本ヲ要  
シ然カモ其收益ニ達スル期間遼遠ナリ故ニ列  
國ハ悉ク斯業ニ従事スル者ニ對シ其政府ヨリ  
甚大ナル補助ト援護トヲ與ヘ以テ其完成ヲ期  
セシム事業家モ亦始メヨリ直接收益アル事業

ヲ兼營シテ之レヲ補フヲ常トス所謂且ツ耕シ  
且ツ戰フ所以ノモ、即チ是レナリ  
顧ミテ列國カ南洋開拓ニ對スル其施設ヲ見ル  
ニ政府ハ事業會社ノ保護ニ關シ極メテ周到ナ  
ル注意ヲ拂ヒ以テ之レカ援助ノ方法ヲ講セサ  
ルハナシ即チ英、佛、蘭ハ更ナリ特ニ獨逸ノ如キ  
ハ企業者ニ對シ土地ノ貸下ハ勿論、行政司法權  
ノ委任、代用貨幣鑄造ノ許可、各種鑛山ノ拂下、貿  
易業ノ獨占、航海船舶ノ補助、社債ノ發行保證、並  
ニ直接開墾補助金ノ下附等收益ニ達スル迄ノ  
期間實ニアラエル方法ニ依リテ之カ保護ヲ與  
ヘタリ彼等カ今日ノ殷富ヲ致セル宜ナリト謂

フヘシ  
聞クカ如クシハ裏南洋ニ於ケル燐礦ハ其礦量  
全部六百萬噸ヲ算シ現ニ海軍省ノ經營ニ屬ス  
ル<sup>7</sup>アンガウル<sup>8</sup>島ノミニテモ毎年ノ産額六萬餘  
噸ヲ下ラスト云フ若シ能ク斯クノ如キ富源ヲ  
開放シテ民業トナシ是ヲ以テ南洋開拓事業ノ  
補助タルコトヲ得セシメ極力援護シテ之カ完  
成ヲ期セシムルニ於テ委任統治ニ對スル施設  
ハ茲ニ始メテ安全ナル基礎ノ上ニ鞏固ナル發  
展ヲ遂クルニ足ルヘキモノト確信仕候  
由來吾々國民ノ南進策ハ獨リ粟粒大ノ裏南洋  
諸島ノミヲ以テ足レリトスルモノニ非ス此レ

ヲ根據トナシ據テ以テ漸次表南洋ニ於ケル大  
陸ニ及ホサントスルモノニ有之候斯ル場合ニ  
當リ假令其一事業タリトモ事官營ニ屬スル時  
ハ各國ハ我發展ニ對シ領土的野心ヲ有スルモ  
ノト見做シ不安ト猜疑トヲ以テ其入國ヲ拒絶  
スルヤ瞭カナリ是レ吾人カ特ニ政府ニ向ヒ裏  
南洋ニ於ル現在ノ事業ヲシテ總テ民業タラシ  
ムルノ必要ヲ痛切ニ主張スル所以ニ御座候  
顧レハ占領當時政府當局者ハ他日ノ講和會議ニ  
際シ萬一ノ場合ニハ邦人ノ事業着手及投資ノ  
事實ヲモ一ツノ資料タラシモンカ爲ノニ各事  
業家ヲ勸奨シテ事業ヲ許可シ督勵一日モ速ニ

之レニ着手スルヲ逼リ以テ邦人勢力ノ扶殖ヲ  
急カシメタリ而シテ事業補助及ヒ援護ハ領土  
権確定ノ期迫忍ハサルヘカラストテ多大ノ困  
難ヲモ忍ハシメテ今日ニ至レリ然レ氏爾來吾  
人ハ奮勵努力孜々トシテ其經營ニ從事シ幾多  
ノ困難ト犠牲トヲ拂ヒ漸ク其緒ニ就カントシ  
テ今又不幸此經濟界ノ打撃ヲ被ムルニ至ル吾  
人若衷ノ存スル所御賢察奉仰候  
於茲乎各會社ハ大ニ時勢ノ推移ト前途ノ大成  
ニ鑑ミ從來諸種ノ關係其他複雑ナル情實ヲ一  
排シ小異ヲ捨テ大同ヲ採ルノ大英斷ヲ以テ  
茲ニ既設拾會社并ニ三商會ノ大合同ヲ計リ資



本金ヲ五千萬圓ト爲シ以テ前記ノ目的ヲ達成  
セシコトヲ期シ既ニ其決議ヲ實行シテ更ニ南  
洋拓殖貿易株式會社ト命名セリ此ノ時ニ際シ  
政府當局ニ於テモ本邦事業界ノ趨勢ニ鑑ミ且  
ツ南洋富源開發ノ實績ヲ遂行セシメシカ爲メ  
前記ノ燐礦ヲシテ當會社ニ拂下ケ目下窮境ニ  
沈淪セル會社ノ經營ヲシテ幸ニ救濟ノ榮ヲ得  
ハ獨リ會社ノ利益ニ止マルノミナラス國家經  
濟ノ上ニ多大ノ擴益ヲナスコト敢テ贅言ヲ要  
スル迄モナキコトト愚考仕候  
伏テ希クハ多年國家ノ爲メ幾多ノ犧牲ヲ拂ヒ  
辛シテ今日猶ホ其事業ニ從事セル吾人ノ經營

ニ御同情ヲ賜ランコトヲ謹テ賢明ナル閣下ノ  
清鑑ヲ冀フコト如斯御座候恐惶頓首再拜

追伸

別冊列記仕候既設諸會社并ニ各商會共全  
部合同致シ各社重役發起人ト相成リ更ニ  
資本金五千萬圓ヲ以テ南洋拓殖貿易株式  
會社ヲ創設仕候事ニ議決致候間併テ御高  
覽奉仰候

大正九年十月

南洋拓殖貿易株式會社

創立發起人總代

東京府下東京市芝區西久保櫻

川町拾参番地

馬越恭平



東京府下東京市深川區佐賀町  
貳丁目参拾参番地

岩崎清七



東京府下東京市麻布區富士見  
町四拾四番地

賀田金三郎



東京府下東京市牛込區市谷仲  
町六拾番地

皆川廣量



東京府下東京市牛込區若宮町

参拾六番地

恒藤規



東京府下東京市麻布區北日ヶ窪  
町参拾七番地

萩原鏝三



東京府下東京市芝區三田網町  
壹番地

富岡俊次郎



山口縣下ノ関市三崎之町貳拾  
貳番地

西村惣四郎



東京府下東京市赤坂區田町七

丁目貳番地

岩澤福松



愛知縣寶飯郡塩津村大字葦谷  
百九番地

大隅常太郎



東京府下豊多摩郡大久保百人  
町貳百五拾七番地

横井太郎



東京府下東京市京橋區本港町  
拾番地

香取修平



東京府下東京市赤坂區氷川町

五拾壹番地

中野欽九郎



東京府下東京市麴町區三年町  
貳番地

藤島太麻夫



東京府下豊多摩郡千駄ヶ谷五百  
貳拾七番地

男爵 赤松 範



東京府下東京市京橋區築地壹  
丁目參番地

廣瀨



海軍大臣男爵加藤友三郎殿閣下

1026

新占領地南洋諸群島ニ於ケル既設諸會社  
並ニ各商會名稱及ヒ資本金額並ニ重役人名

1027

送



南洋貿易株式會社 資本金貳百萬圓

社長 岩崎清七

專務取締役 萩原鏝三

取締役 岡田壯四郎

全 橋本才吉

全 田中丸善藏

監査役 一川崎肇

全 宮島清次郎

南洋殖産株式會社 資本金參百萬圓

社長 恒藤規隆

取締役 岩崎清七

全 川崎肇

南洋拓殖工業株式會社

資本金百五十萬圓

取締役 瀧澤吉三郎

全 廣瀬清

全 今川唯市

監査役 鎌田勝太郎

全 安部幸之助

社長 賀田金三郎

取締役 皆川廣量

全 西村惣四郎

全 清水雄次郎

全 安東藤太郎

全 赤松範一

南洋興業株式會社

資本金百貳拾萬圓

取締役

三好光三郎

監査役

岩楯銈三郎

監査役

西村一松

監査役

德永安兵衛

監査役

宮田俊次郎

監査役

泉仁三郎

監査役

三由仁作

取締役

藤井忠兵衛

監査役

横井太郎

監査役

岡田關四郎

監査役

長尾庄助

圖南株式會社 資本金百萬圓

取締役 岩澤福松

全 菊池長右衛門

全 丸谷末吉

全 村上捨吉

全 藤田秀雄

全 監査役 山下作次郎

全 高倉盛光

南洋纖維工業株式會社 資本金百萬圓

社長 喜多又藏

全 取締役 範多龍太郎

全 南郷三郎

取締役 塚口春治

監査役 山田穰

全 村松諦成

「ヤツ」島興業株式会社 資本金百萬元

取締役 中野欽九郎

南洋産業株式会社 資本金五拾萬圓

取締役 大隅常太郎

全 小林周藏

全 本多寅吉

監査役 鈴木左太郎

全 千賀松太郎

東京潜水工業株式會社 資本金五拾五萬圓

社長 松岡 常吉

香取商會 資本金 拾萬圓

商會主 香取 修平

マリアケ煙草商會 資本金 拾萬圓

商會主 大橋 賢之輔

飯野商會 資本金

商會主 飯野 寅吉

西村拓殖株式會社 資本金 五百萬圓

取締役 西村 惣四郎

全 西村 一松

中野商會 資本金 參萬圓

商會主 中野 藤之助

以上

南洋拓殖貿易株式會社創立發起人總代

海軍大臣男爵加藤友三郎殿閣下

經理局



次官

軍務局



11-2  
海軍省  
軍務局  
第一課  
加藤友三郎殿  
下  
計  
百  
一  
格  
九  
二  
二  
一

經理局  
9.11.12  
接受

第三號

紙 野 案 起

大正九年十一月廿九日起案

起案者 漆印

十二月十日發付

發付者 漆印

發付後起

案者漆印

起案者 漆印

(主) 軍務局

局長

南洋部

部長

大臣

次官

副官

第一課

第二課

君真

局長

次官

參事官

參事官

參事官

參事官

參事官

參事官

參事官

參事官

參事官

經理局

局長

第一課

第二課

君真

局長

第三課

局長

局部	官房	軍務	人事	艦政	機關	醫務	經理	法務	技本	造兵	教育	臨建	水路	軍令
受月日	發月日													

經理局接受  
9.12.3

大正九年十二月十四日

次官

外務次官宛

アソガウハ 燐礦其他、清算、狀況ニ関スル件

本月十日附條三機密送第一五二號御照會、外務省

號番  
官房機密第一六五二號



之ヲ以テレテハ決定シ難キ事柄ニ有之尙在南洋群島舊敵  
國財産管理ニ付テハ已ニ當省ヨリ特種財産管理局ニ  
別紙ニ有之諸調査資料ハ今局ニ送附致置候條右  
御了知ノ上可然御取計ヲ得度  
右回答ス

(終)

大正九年十二月十四日

次官

内務次官宛(各別)

アシカカウル燐礦其他ノ清算ノ状況ニ関スル件

本件ニ関シ別紙甲號寫ノ通リ外務次官ヨリ照会有之候  
ニ付別紙乙號寫ノ通リ回答致置候條御了知相成度

仙道書  
兩号の資料  
密才一六五二号  
二陸行

尚「ア」ンガウル「ル」燐礦清算ニ関シ別紙丙號御卷  
考迄及送附候  
右ノ通報ス

(別紙世六葉添)

(終)

官房機密第一六五二号(別紙丙号添付)ハ經理局ニテ保存ス

海軍  
明治三十四年十一月三日